

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	にじいろ			
○保護者評価実施期間	R7年12月1日		～	R7年12月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	17	(回答者数)	13
○従業者評価実施期間	R7年12月1日		～	R7年12月14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	R8年1月17日			

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	月1～2回、定期的に心理士に支援を見ていただき、助言をもらっている。	心理士の支援日に合わせて、子どもの利用日を決めて、様子を見てもらい、助言をいただけるようにしている。また、必要に応じて、保護者へも声掛けをし、直接心理士と話をすることで、相談できる機会も設けている。	保護者が関わり方に悩んでいる時には、直接相談できる機会を持てるように、早めに声掛けができるように日程を調整していく。また、開所日に保護者勉強会を実施している為、参加の促しの声掛けを引き続きしていく。
2	リズムや送迎時などに直接やりとりをしながら、気軽に相談できる雰囲気を作る。	直接やりとりする機会が少ない家庭には、リズム帳を使って、日頃の子どもの様子を共有したり、保護者からの相談に丁寧に返答としてやりとりすることを心掛けている。文面で伝えるのが難しい内容に関しては、電話で連絡をして直接話をしながら、具体的な関わり方や対応についてを共有できるようにする。	リズムに記載のない家庭に対しては定期的に電話連絡をしながら、家庭状況を把握するように努めていく。また、どの職員にも相談ができるような環境を作っていくように、土曜開所日等の保護者と関わる機会等を作っていくようにする。
3	園や併行通所先等の関係機関との定期的な面談を行いながら、情報共有を行っている。	利用開始前に必ず通園先の園と面談を行っている。入園前、進級後や年度末等、環境が変わる際にも面談する機会を設けていて、園や家庭・にじいろでの様子の共有や、対応の仕方の統一などができるように、保護者を入れて3者での面談を実施するようにしている。	直接園に送迎した際に情報共有することができることもあるので、今後も続けていながら、利用児がどの場所でも同じような関わり方で安心して過ごしていけるように、連携を取っていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	勤務時間内で職員全員でのミーティングをする時間が取れていない。支援についてや活動についての共有をする時間が取れていないことが多い。	勤務時間内で話し合いをする時間を確保することが難しく、支援や記録を行っている中で、話し合いだけに時間を設けることができていない。	朝の朝礼やその際に伝えられない事項についてはノートを使って、各自連絡事項を確認できるようにしているが、実際に支援や活動内容については直接のやりとりの方が共有しやすい為、午前の支援後など全員がいる時間で話を出来る工夫などを今後はしていきたい。
2	地域との交流する機会が少ない。	近くに保育園はあるが、交流したりする機会は持てていない。	公園遊びの際などで同じ遊具を使う時などの交流はあるが、現段階では園自体との交流はない為、今後、地域と交流できる機会や場を設けていけるような工夫を検討していく。
3	事業所内外の環境で、転倒などや怪我に繋がる恐れがある所がある。	入口が段差になっている為、子どもがふらついて転倒しそうになったり、雨の日はタイルの滑りやすさがある。室内では、ガートをして使っている柵との間に段差があったり、非常ドアにストッパーとしての出っ張り箇所がある。	入口を通る際は、転倒や事故を防ぐ為、必ずスタッフと手を繋ぎ、保護者にも道路に面している為、手を繋いでの来所や帰ることを再度お願いする。室内の危険箇所については、保護シート等で子どもが怪我をしないような工夫をしたり、段差がある部分や危ない所については子ども達にも再度伝えていながら、安全に配慮していく。